

イノベーションに情熱を。  
ひとに思いやりを。



## 2013年度決算 経営説明会

代表取締役社長 兼 CEO  
中山 讓治

2014年5月16日(金)

# 2013年度 連結業績の概要

## 国際会計基準 (IFRS)

単位：億円

	2012年度 実績	2013年度 実績	増減
売上収益	9,947	11,182	+12.4% +1,236
売上原価	3,385	4,023	+638
研究開発費	1,844	1,912	+68
販売費・一般管理費	3,730	4,132	+402
営業利益	987	1,116	+13.0% +128
税引前利益	959	998	+39
当期利益 (親会社帰属)	640	609	-4.8% -31
1株あたり 配当金(円/年)	60	60	
為替 レート	USD/円	83.11	100.24
	EUR/円	107.15	134.38
	INR/円	1.50	1.68

## (ご参考)日本基準

単位：億円

	2012年度 実績	2013年度 実績
売上高	9,979	11,188
売上原価	3,137	3,755
販売及び一般管理費	5,837	6,273
研究開発費	1,830	1,897
一般管理費	4,006	4,376
営業利益	1,005	1,159
経常利益	991	1,050
税引前純利益	921	1,093
当期純利益	666	657

\*日本基準により作成した計数につきましては、  
会計監査を受けておりません。

# 2013年度 連結業績

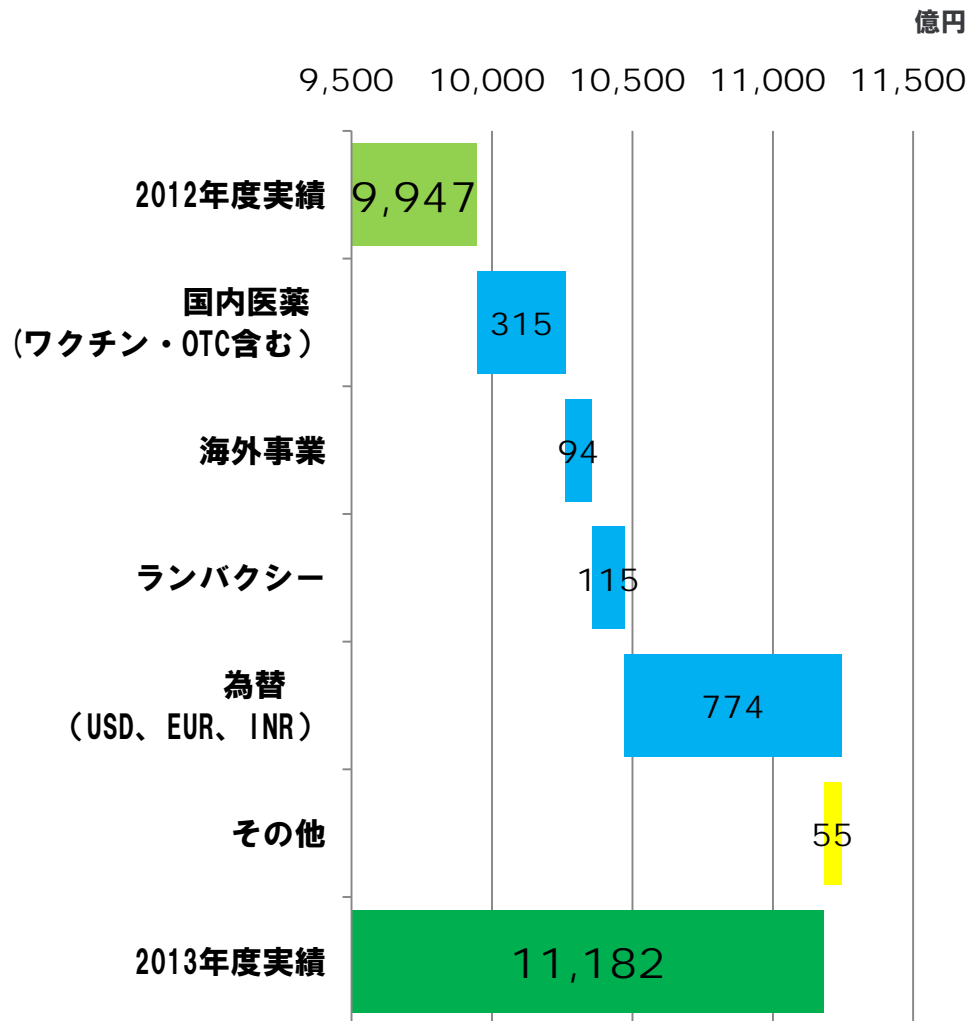
(ご参考) IFRSと日本基準との差異

単位:億円

	IFRS	日本基準	差異	主な差異理由
売上収益	11,182	11,188	-5	返品調整引当 -5
売上原価	4,023	3,755	+268	販売費・一般管理費から振替 +163 (無形固定資産償却費+80、ロイヤリティ+83) 営業外損益・特別損益から振替 +78
研究開発費	1,912	1,897	+15	売上原価へ振替 -163 営業外損益・特別損益からの振替 +46
販売費・一般管理費	4,132	4,376	-244	のれんの非償却化 -76
営業利益	1,116	1,159	-44	営業外損益・特別利益からの振替 -126 のれんの非償却化 +76
税引前利益	998	1,093	-95	有価証券売却益等を包括利益へ -164 のれんの非償却化 +76
当期利益 (親会社帰属)	609	657	-47	

\*日本基準により作成した計数につきましては、会計監査を受けておりません。

# 2013年度 売上収益増減



## 増収要因

## 減収要因

### 国内医薬

増収: ネキシウム+327, メマリー+95,  
ランマーク+36、オルメテック/レザルタス +23  
減収: メバロチン -43, クラビット -24, カルブロック -20

### 海外事業

・第一三共Inc. (DSI) ±0  
・ルイトポルド(LPI) -58  
・第一三共ヨーロッパ(DSE) +25  
・アジア/中南米(ASCA) +126 (為替影響含む)

### ランバクシー(RLL)

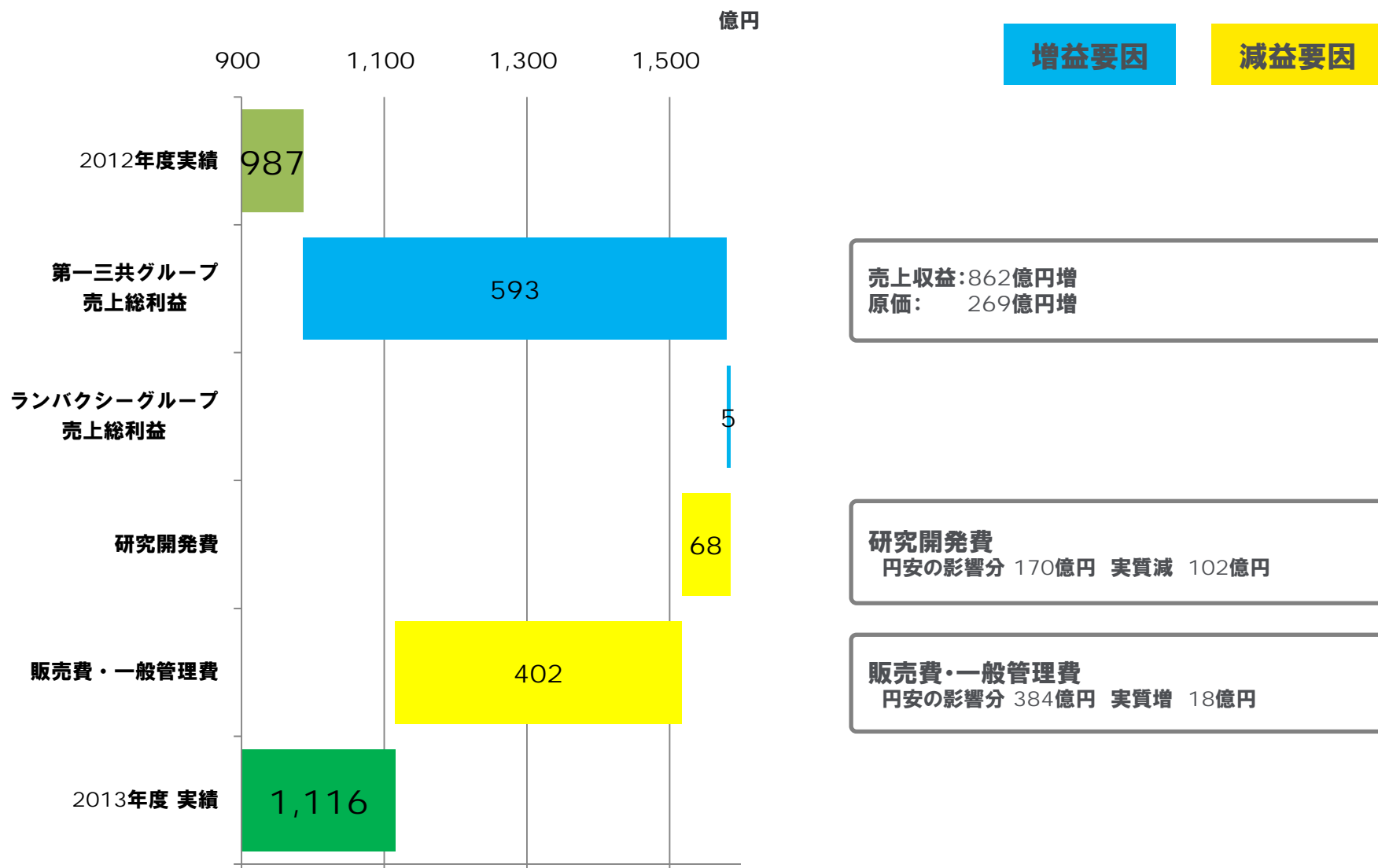
・15ヶ月決算の影響(3か月分) 約+415 含む

### 円安の影響額

USD: +376, EUR: +161, INR: +236

		2012年度 実績	2013年度 実績
為替 レート	USD/円	83.11	100.24
	EUR/円	107.15	134.38
	INR/円	1.50	1.68

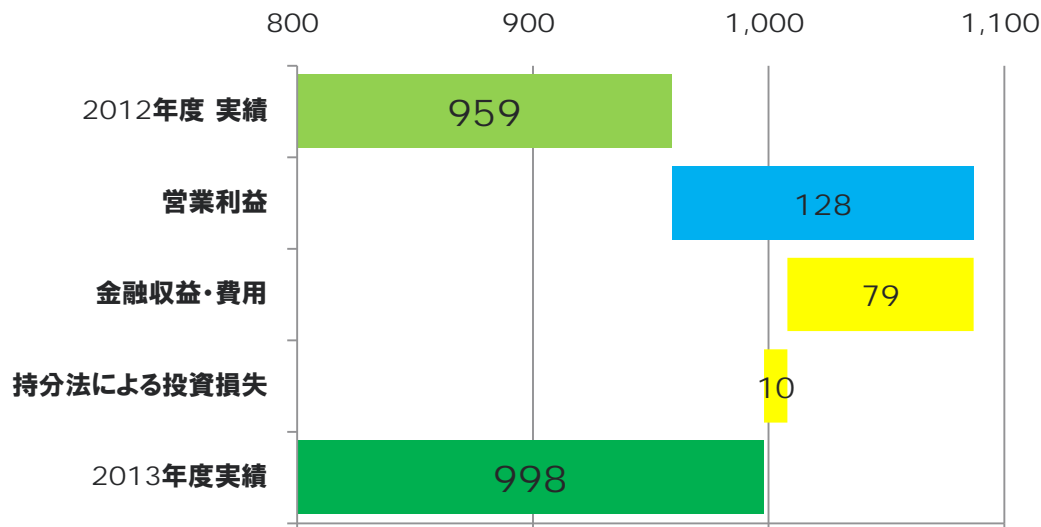
# 2013年度 営業利益増減



# 2013年度 税引前利益／当期利益増減

## 税引前利益

億円



増益要因

減益要因

RLLのデリバティブ実現損、支払利息の増加等

## 当期利益(親会社帰属)

億円

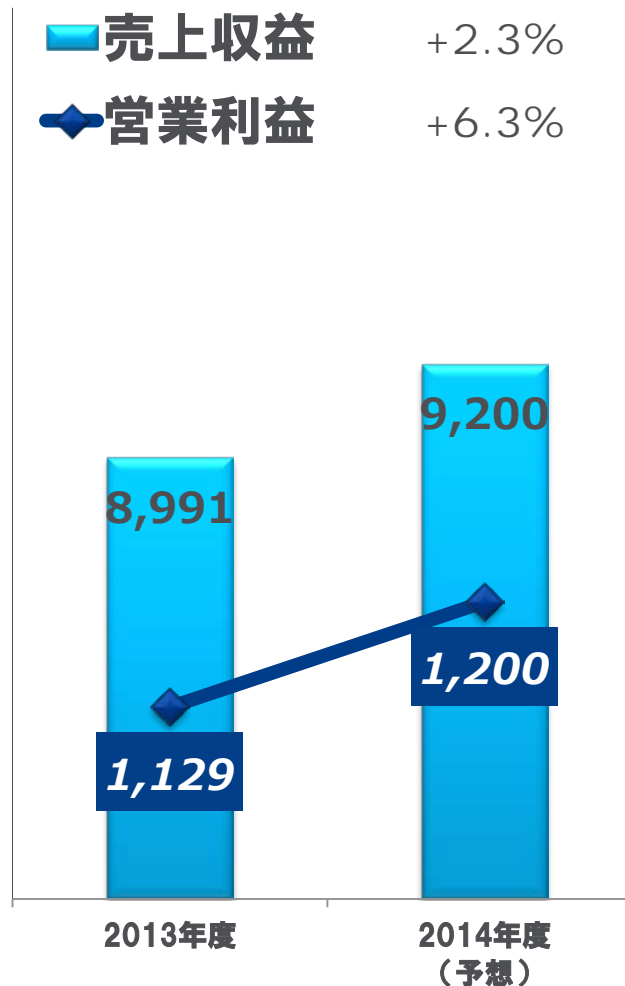


法人税等:実効税率 31.2%→46.5%  
 ・エドキサバン臨床試験費用の税務上の損金化に伴う「試験研究費税額控除」の非適用  
 ・復興税廃止による税率差異  
 などによる、税金費用の増加

# 2014年度 第一三共グループ 連結業績予想

単位:億円

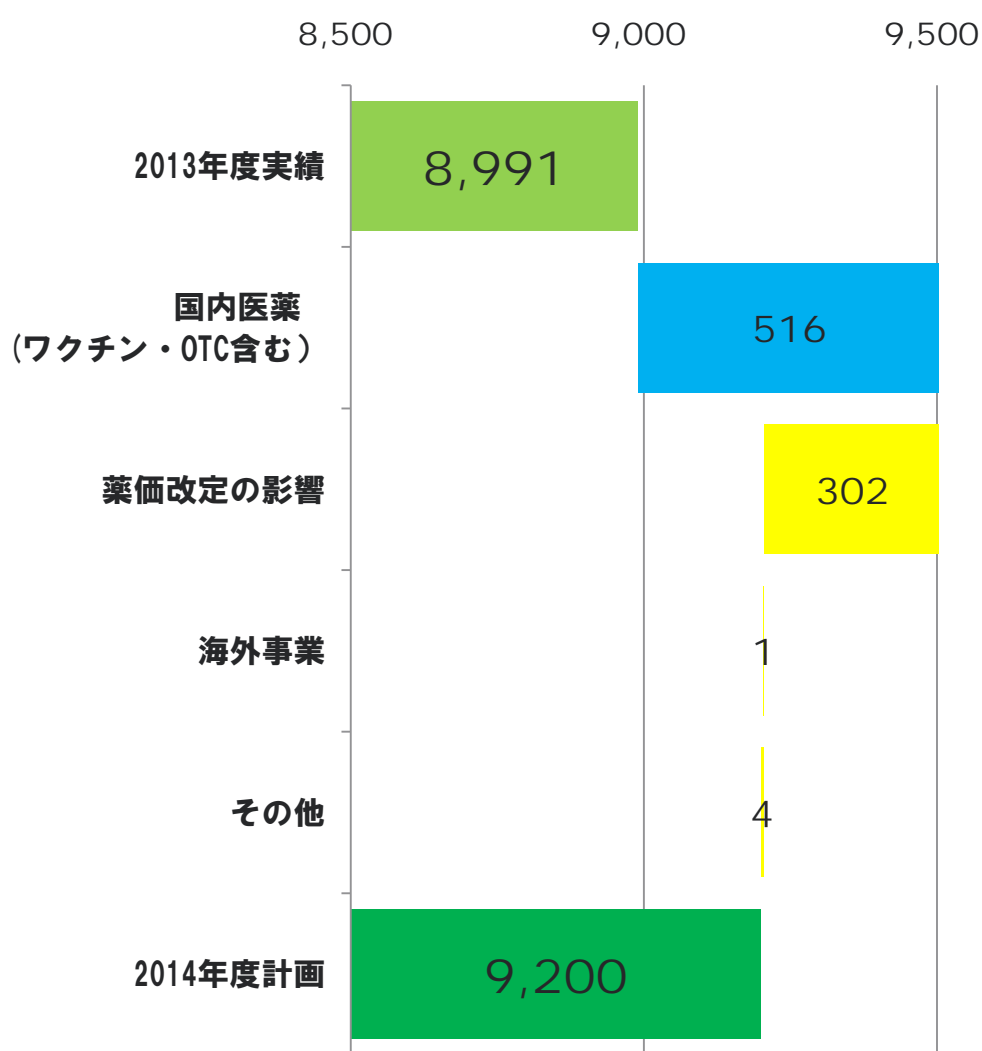
	2013年度 実績	2014年度 予想	増減
売上収益	8,991	9,200	+2.3% +209
売上原価	2,829	2,850	+21
研究開発費	1,807	1,820	+13
販売費・一般管理費	3,227	3,330	+103
営業利益	1,129	1,200	+6.3% +71
税引前利益	1,129	1,200	+71
当期利益 (親会社帰属)	688	780	+13.3% +92
一株あたり 配当金(円)	60	60	
為替 レート	USD/円	100.24	100
	EUR/円	134.38	140



ランバクシーグループを含まない「第一三共グループ」(継続事業)の数字のみで公表しております。

# 2014年度 増収予想の内訳

億円



増収要因

減収要因

## 国内医薬

メモリー+167, ネキシウム+128, プラリア +88

## 海外事業

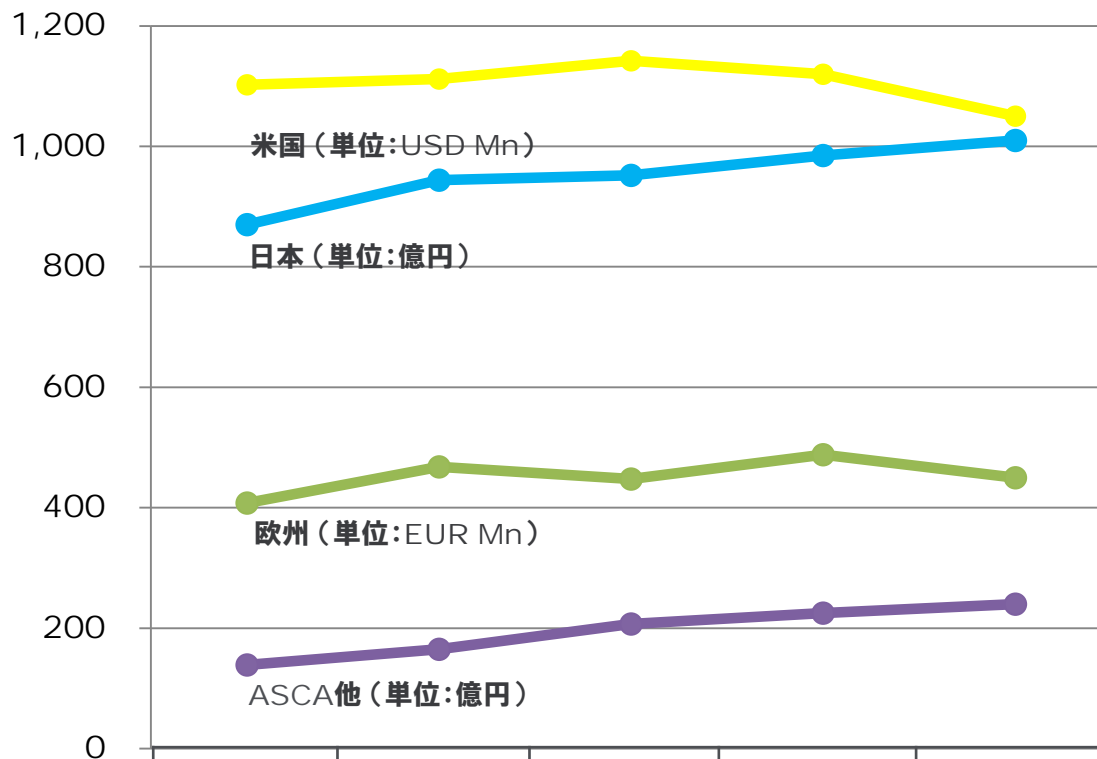
DSI -78, LPI +104, DSE -29

為替  
レート

	2013年度 実績	2014年度 予想
USD/円	100.24	100
EUR/円	134.38	140



# オルメサルタンの売上推移（現地通貨ベース）



	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度計画
 日本（単位：億円）	870	944	952	976	1,010
 米国（単位：USD Mn）	1,102	1,112	1,142	1,120	1,050
 欧州（単位：EUR Mn）	408	468	448	488	450
 ASCA他（単位：億円）	139	165	207	247	240

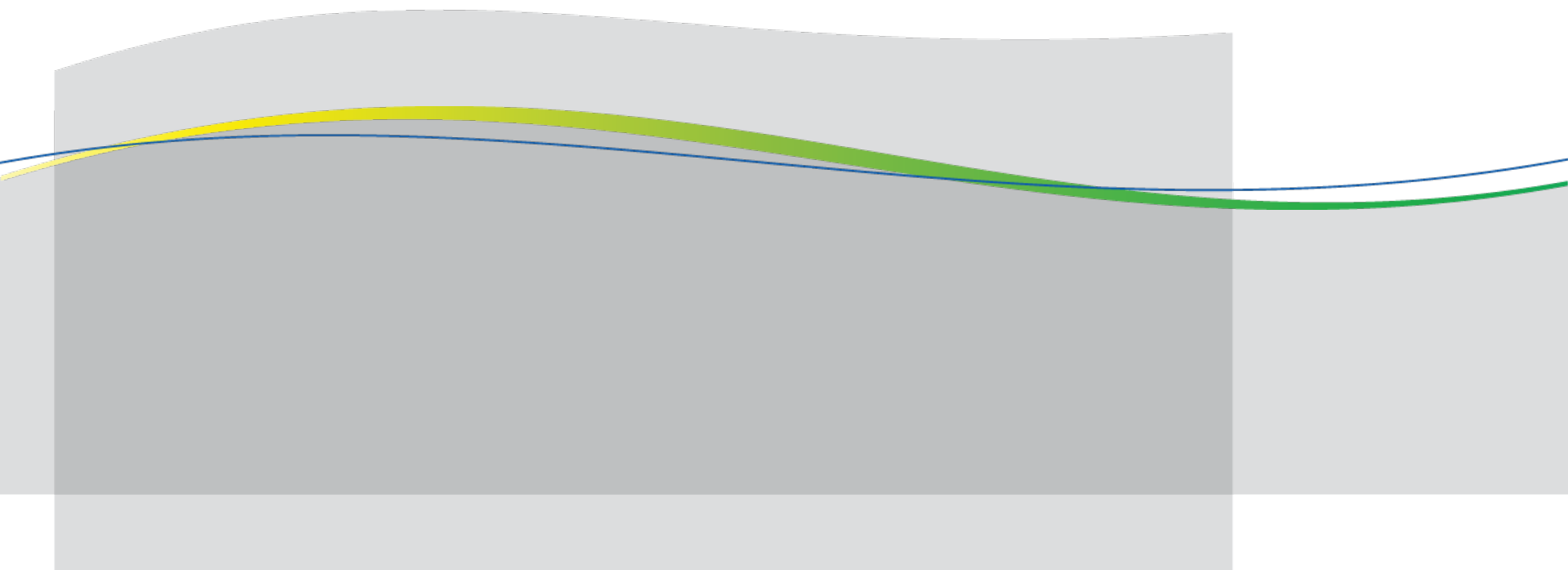
オルメサルタン内訳 日本：オルメテック、レザルタス

米国：ベニカー、ベニカーHCT、エイゾール、トライベンゾール

欧州：オルメテック、オルメテックプラス、セビカー、セビカーHCT

- ◆ **増収増益達成(第一三共グループ)**
  - **売上収益:** 9,200億円(前期比+2.3%)
  - **営業利益:** 1,200億円(前期比+6.3%)
  
- ◆ **グローバル製品の育成**
  - **オルメサルタン:** 3,000億円製品のポジション維持
  - **プラスグレル:** 継続的成長、日本での新発売
  - **エドキサバン:** 日米欧での承認取得、発売
  
- ◆ **各地域事業における収益最大化**
  - **新製品群の継続成長による日本市場のシェア拡大**
  - **インジェクタファー伸長によるLPIの成長軌道回復**
  
- ◆ **収益力向上への取り組み**
  - **構造改革による組織運営の最適化**

# 国内営業の目標



## ◆ 日本における標準治療薬へ

- 治療早期から心血管イベント抑制
- クロピドグレルと同等な安全性
- より安定した血小板凝集抑制効果

## ◆ 抗血小板剤市場の現況

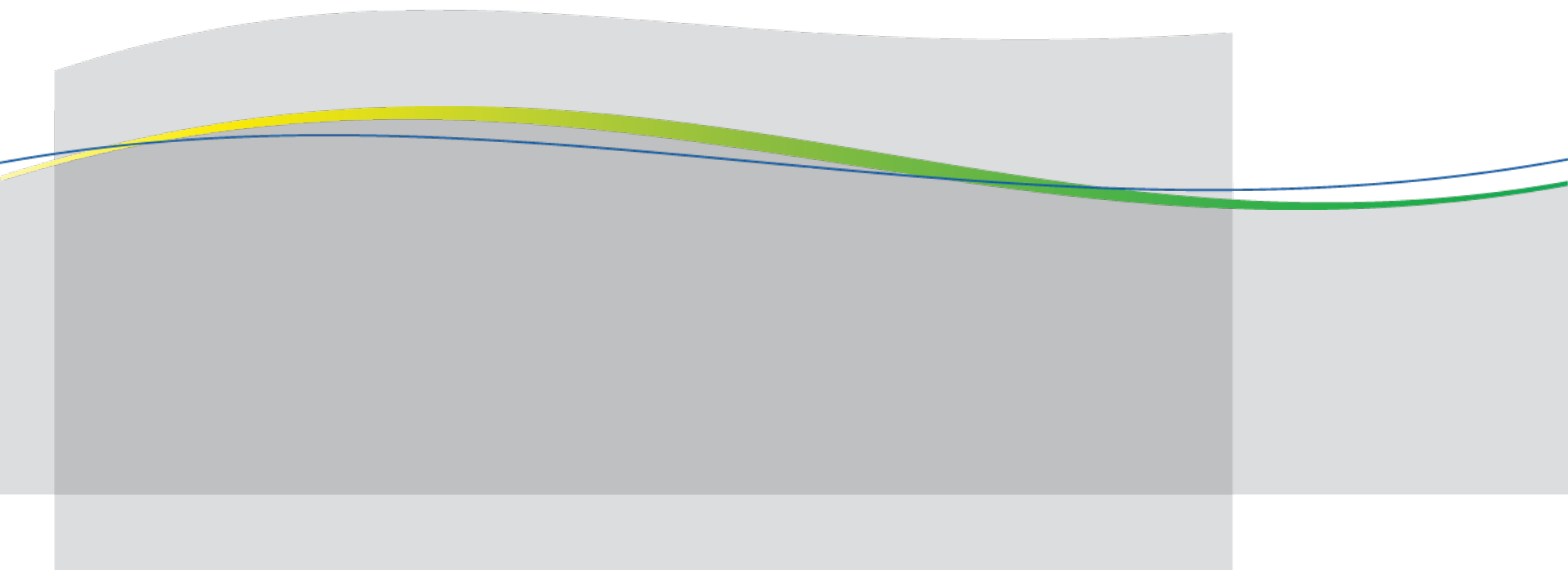
- 1,800億円超の市場(薬価ベース)
- 過去5年で30%以上の成長
- 60%以上のシェアを占めるクロピドグレル

# 国内主要製品 売上計画

単位:億円

		2012年度 実績	2013年度 実績	2014年度 計画
オルメテック	高血圧症治療剤	783	791	790
レザルタス	高血圧症治療剤	169	185	220
ロキソニン	消炎鎮痛剤	596	593	520
クラビット	合成抗菌剤	359	335	290
ネキシウム	抗潰瘍剤 (プロトンポンプ阻害剤)	216	542	670
メマリー	アルツハイマー型 認知症治療剤	238	333	500
メバロチン	高コレステロール血症 治療剤	258	215	170
アーチスト	高血圧症治療剤	224	224	210
オムニパーク	造影剤	202	197	150
ユリーフ	排尿障害治療剤	111	114	100
イナビル	抗インフルエンザ ウイルス剤	111	134	100
ランマーク	癌骨転移治療剤	44	81	100
プラリア	骨粗鬆症治療剤	-	32	120

# 海外主要3社の目標



2013  
年度  
(実績)

- オルメサルタンのARB市場でのシェア維持
- エフィエント・ウェルコールの伸長

2014  
年度  
(目標)

- オルメサルタン、エフィエントの売上維持
- ウェルコールの独占販売期間満了への対応
- エドキサバンの上市・スムーズな市場導入
- 外部資源の獲得

2013  
年度  
(実績)

- ARB市場におけるオルメサルタンの伸長
- 競合下でのエフィエントの成長鈍化
- 営業要員の適正化

2014  
年度  
(目標)

- オルメサルタン、エフィエントの売上維持
- エドキサバンの上市・スムーズな市場導入
- 「Accessモデル」の営業体制確立



2013  
年度  
(実績)

- インジェクタファーの上市と円滑な市場導入
- シャーリー工場 GMP対応にともなう出荷制限

2014  
年度  
(目標)

- インジェクタファーの急速拡大
- 主力品ヴェノファーの維持
- シャーリー工場の操業安定化とオハイオ新工場の稼働\*

\*2014年度中にFDAの認可取得見込み

# 鉄欠乏性貧血治療剤 インジェクタファー

—新たな治療法の提供—

## ◆優れた製品プロフィール

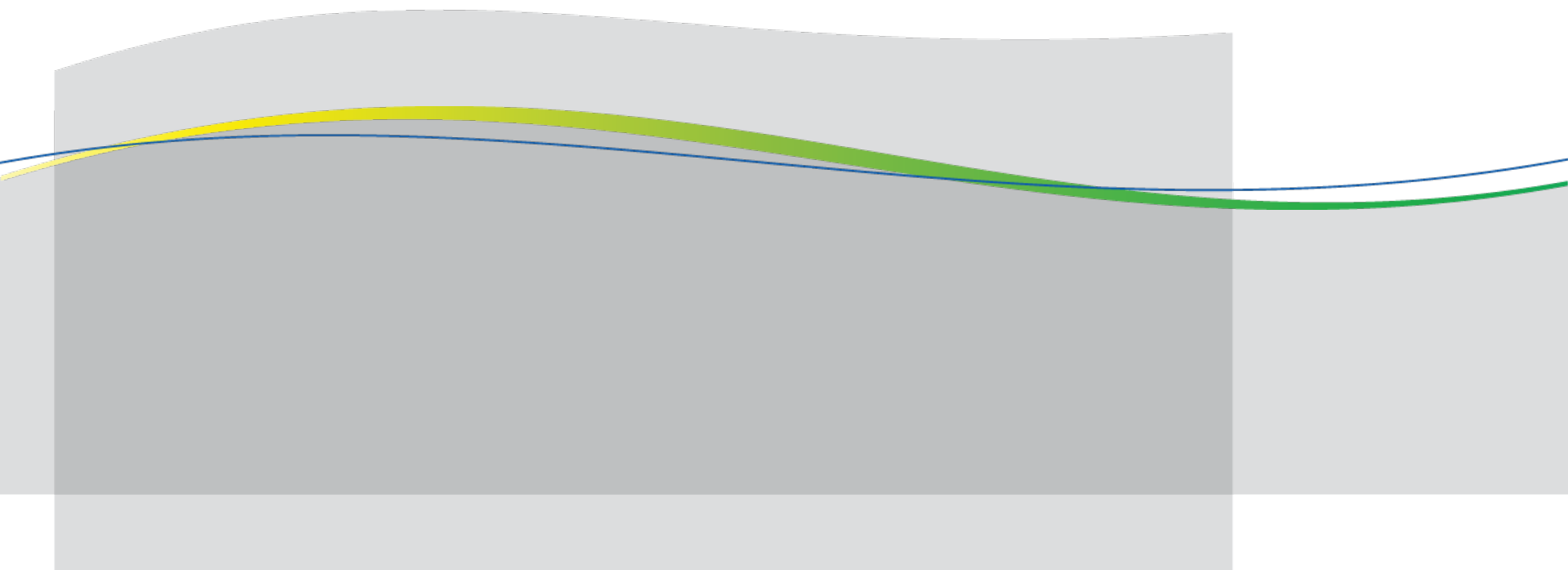
- 広い適応症
- 経口鉄剤を有意に上回る貧血の改善
- 鉄剤の中で最高用量の投与が可能
- 最短15分での点滴治療が可能



## ◆鉄欠乏性貧血治療剤の市場

- 透析市場:成熟市場
- 非透析市場:成長市場
  - 既存薬での低い治療満足度
  - 消化器、癌、婦人科領域等を含め、年10%以上の成長を予想

# エドキサバンの営業戦略



# 市場特性と求められる営業体制

## ◆市場特性

- 新規抗凝固剤(NOAC)市場の急成長
- 依然として大きいワルファリンの処方割合
- リバロキサバンが、マーケットリーダー
- 日米欧など先進国を中心とする市場構成

## ◆求められる営業体制

- 営業の「量(MR数)」よりも「質」が重要
- 多様なステークホルダーへの対応能力
- 一貫したブランド戦略とスピーディーな意思決定

- ◆ 1日1回投与の利便性と高い安全性の両立を実現
  - ◆ 患者の状態に合わせた用量調整が可能
  - ◆ 世界最大規模・高品質のフェーズ3試験による成果
    - ENGAGE AF-TIMI 48 (21,105例・2.8年間のフォローアップ)
    - Hokusai-VTE (8,292例・12ヶ月間のフォローアップ)
    - 最高レベル\*にコントロールされたワルファリンとの比較により、有効性で非劣性、安全性で優越性を確認
- \*他NOACが実施したAF/VTE試験との比較
- ◆ DVT-OS 15万人以上の安全性データの蓄積



- ◆ **オルメサルタン・プラスグレルで培った  
循環器・血栓症領域における実績**
- ◆ **日米欧において、質の高い営業力を保有**
  - ✓ **米欧: Accessモデルによる営業体制をほぼ確立**
  - ✓ **日本: 国内トップクラスの営業力**



## □ 日米欧：自社単独販売

- ◆ 一貫したブランド戦略及びスピーディーな事業展開

## □ 日米欧以外：国・地域ごとに最適なパートナーを選定

目標適応症	2014年度		2015年度 ~
	4-9月	10-3月	
<b>心房細動に伴う脳卒中 および全身性塞栓症予防</b>  	<b>審査中</b>	<b>承認・上市 日米欧</b>	<b>上市 欧州・ASCA</b>
<b>DVT*/PE**患者の静脈血栓 塞栓症の治療および再発抑制</b>  	<b>審査中</b>	<b>承認・上市 日米欧</b>	<b>上市 欧州・ASCA</b>

承認申請  
日本  
2013.12  
欧米  
2014.1

\*DVT : Deep Vein Thrombosis (深部静脈血栓症)  
\*\*PE : Pulmonary Embolism (肺塞栓症)

ASCA : Asia, South and Central America



## ◆2014年度 増収増益達成

- 売上収益: 9,200億円(前期比+2.3%)
- 営業利益: 1,200億円(前期比+6.3%)

## ◆エドキサバンの上市とスムーズな市場導入

## ◆日本市場でのシェア拡大

## ◆インジェクタファアの急速拡大

# 主要R&Dパイプライン

(2014年5月現在)



領域	フェーズ 1	フェーズ 2	フェーズ 3	承認申請・承認
循環代謝	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ DS-7309 (糖尿病/グルコキナーゼ活性化剤)</li> <li>■ DS-8500 (糖尿病/GPR119作動薬)</li> <li>■ DS-1442 (脂質異常症/CETP阻害剤)</li> <li>■ DS-1040 (急性期虚血性脳血管障害/TAFIa阻害剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ CS-3150 (日) (高血圧症・糖尿病性腎症/MR拮抗薬)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ プラスグレル(日) (CS-747 / 虚血性脳血管障害 / 抗血小板剤)</li> <li>■ プラスグレル(米) (CS-747 / 鎌状赤血球 / 抗血小板剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ プラスグレル(日) (CS-747 / PCI / 抗血小板剤)</li> <li>■ エドキサバン(日米欧) (DU-176b / AF / 経口FXa阻害剤)</li> <li>■ エドキサバン(日米欧) (DU-176b / VTE / 経口FXa阻害剤)</li> </ul>
癌	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ U3-1565 (米日) (抗HB-EGF抗体)</li> <li>■ DS-2248 (米) (HSP90阻害剤)</li> <li>■ DS-7423 (米日) (PI3K/mTOR阻害剤)</li> <li>■ DS-3078 (米欧) (mTOR阻害剤)</li> <li>■ DS-3032 (米) (MDM2阻害剤)</li> <li>■ PLX7486(米) (Fms/Trk阻害剤)</li> <li>■ DS-8895(日) (抗EPHA2抗体)</li> <li>■ DS-8273(米) (抗DR5抗体)</li> <li>■ PLX8394(米) (BRAF阻害剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Patritumab (米欧) (U3-1287 / 抗HER3抗体)</li> <li>■ Vemurafenib (米/欧) (PLX4032/BRAF阻害剤)</li> <li>■ PLX3397 (米) (Fms/Kit/Flt3-ITD阻害剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Tivantinib (米欧) (ARO 197 / 肝細胞癌 / Met 阻害剤)</li> <li>■ デノスマブ(日) (AMG 162 / 乳癌補助療法 / 抗RANKL抗体)</li> <li>■ ニモツズマブ (日) (DE-766 / 胃癌 / 抗EGFR抗体)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ デノスマブ(日) (AMG 162 / 骨巨細胞腫 / 抗RANKL抗体)</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ PLX5622 (関節リウマチ/FMSキナーゼ阻害剤)</li> <li>■ DS-1093 (腎性貧血/HIF-PH阻害剤)</li> <li>■ DS-3801 (慢性便秘/GPR 38アゴニスト)</li> <li>■ DS-1971 (慢性疼痛)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ Mirogabalin (グローバル) (DS-5565 / 慢性疼痛 / <math>\alpha 2\delta</math>リガンド)</li> <li>■ SUN13837 (米欧) (脊髄損傷/bFGF様細胞分化誘導体)</li> <li>■ ラニナミビル (米/欧) (CS-8958 / 抗インフルエンザ / ビオタと導出活動中)</li> <li>■ Ioforninol(日) (GE-145 / X線造影剤/血管撮影)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ レボフロキサシン (日) (DR-3355 / 感染症 / ニューキノロン系抗菌剤)</li> <li>■ デノスマブ (日) (AMG 162 / 関節リウマチ / 抗RANKL抗体)</li> <li>■ ヒドロモルフォン (DS-7113 / 癌性疼痛 / <math>\mu</math>オピオイド受容体作動薬)</li> </ul>	

- ・プラスグレル: 2014年3月に承認取得、5月中に発売見込み
- ・Mirogabalin: 2014年6月に米国糖尿病学会(ADA)において、第2相臨床試験のデータを発表予定。  
(DS-5565) 2014年度中に第3相臨床試験を開始予定。

**本資料に関するお問い合わせ先**

**第一三共株式会社  
コーポレートコミュニケーション部**

TEL: 03-6225-1126 (報道関係者の皆様)

03-6225-1125 (株式市場関係者の皆様)

当社が開示する業績予想、将来予測に関する情報、また研究開発に関する情報等につきましては、将来を見込んだ見解として、開示時点で入手可能な情報に基いた当社の想定を示しております。従いまして、開示した情報は、一定のリスクや不確実性を含んでいること、実際の業績は、当社の見解と異なる可能性があることを、ご留意願います。